

大阪電気通信大学大学院

教育基本三方針

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）



つなぐ知 かなえる技

大阪電気通信大学

Osaka Electro-Communication University

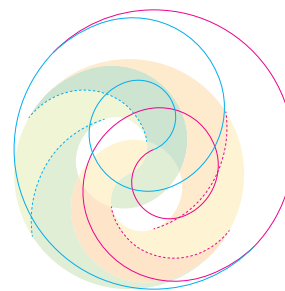
表紙のシンボルマークとタグラインの解説

シンボルマーク



解説

シンボルマークは、2つの螺鈿をつなげて正円をつくり、色の重なりによって渦を巻き融合するイメージを表しています。グリーンとオレンジが交わり合っ一つの形を成し、学校法人大阪電気通信大学の教育の特色である「人間力」と「技術力」の融合を表現しています。同時に、教職員・学生・生徒・保護者といった人と人の融和・つながりを大切にする学園である、との意味もこのマークには込められています。



タグライン

つなぐ知 かなえる技

解説

知性、知力、知識、人の心を知る力といった「知」をもって、人と人、技術と技術をつなぐことを「つなぐ知」と表現しています。そして技術、学術、手わざといった「技」をもって、人や社会が求めているものをつくること、自分が希望する未来を実現することを「かなえる技」と表現しています。「人間力」「技術力」に通じるこの2つの能力を身につけた学生・生徒を育むという学園の意思が、本タグラインには込められています。

目 次

アドミッション・ポリシー

大学院	1
工学研究科	2
医療福祉工学研究科	3
総合情報学研究科	4

カリキュラム・ポリシー/カリキュラム・マップ/ディプロマ・ポリシー

大学院	5
工学研究科	7
先端理工学コース	8
電子通信工学コース	9
制御機械工学コース	10
情報工学コース	14
医療福祉工学研究科	16
医療福祉工学専攻	
総合情報学研究科	19
デジタルアート・アニメーション学コース	22
デジタルゲーム学コース	23
コンピュータサイエンスコース	24

はじめに

すべての学生が「人間力」と「技術力」を育み、自らの人生を切り開いていく未来へ

この冊子には、大学院に入学した皆さんが「人間力」と「技術力」を育むための基本となる本学大学院の3つの方針（ポリシー）、すなわち、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを大学院全体、各研究科及び各専攻別に記載しています。入学した皆さんは、ディプロマ・ポリシーで求められる人物像を目指して、修士又は博士の学位取得に励んでください。

「不可能」の反対語は、「可能」ではない、「挑戦」だ

引用元：「トップアスリート」名語録 頂点を極めた彼らは、その時何を語ったか 著者：桑原晃弥 発行元：PHP 文庫

この言葉は、黒人初の大リーガーとなったジャッキー・ロビンソンが仲間に決意した言葉とのことでした。

これから大学院で学んでいく皆さんも、ときには不可能だと思える壁にぶつかることもあるかもしれません。しかしそんなとき、このジャッキー・ロビンソンの言葉を思い出し、常に挑戦し続けていって欲しいと願っています。

大学院は、「高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与する」ことを目的としています。常に自分自身に挑戦し、深い学識と卓越した能力を身に付けて、将来、社会で活躍することを期待しています。

大阪電気通信大学
学長 大石 利光

大阪電気通信大学大学院

アドミッション・ポリシー

(全学の入学者受け入れ方針)

大阪電気通信大学大学院では、学士で培った研究に関する基礎能力を更に発展させるべく、工学・医療・総合情報の各研究分野において、それぞれ志す専門分野の真理の探究に努め、未来社会の進展に貢献できる責任ある人材の輩出を目指します。

工学研究科

アドミッション・ポリシー

(工学研究科の入学者受け入れ方針)

工学研究科は、産業の基盤となる工学およびその根幹をなす科学技術の基礎と応用を教授研究するとともに、高度な工学技術を通して社会に貢献できる専門的な人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

- (1) 社会に関する幅広い教養と、基礎科学および工学の知識を身につけている人。
- (2) 工学、科学に関する高度な専門知識を修得し、新しい分野を開拓し、自ら問題解決をしたいと思っている人。
- (3) 科学技術に対する正しい倫理観を持ち、自らの専門知識を通して社会に貢献したいと考えている人。

医療福祉工学研究科

アドミッション・ポリシー

(医療福祉工学研究科の入学者受け入れ方針)

医療福祉工学研究科は、医療・保健・福祉領域に展開しうる工学技術の基礎と応用を教授研究すると共に、当該分野で活躍できる専門的な人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

- (1) 生命科学の基礎知識を有し、医学や工学の応用技術を体系化して学べる学習基盤を有している人
- (2) 生体医工学、医療工学、福祉工学、健康運動科学、リハビリテーション科学の分野において感心を持ち、高度な専門家を志す強い意志を持つ人
- (3) 医療福祉工学の学術領域において、研究活動に必要な基礎コミュニケーション能力および情報収集能力を有し、主体的な研究活動を行う意欲を持つ人

総合情報学研究科

アドミッション・ポリシー

(総合情報学研究科の入学者受け入れ方針)

総合情報学研究科は、現代社会の基盤である情報技術の根幹をなすコンピュータサイエンスを基本とし、日本が世界を先導しているゲームやアニメーションなどのコンテンツ制作やネットワーク、グラフィクス、計測・制御などの高度情報化社会に必要とされる研究分野に対して、高度な技術力と創造力および表現力により、社会に貢献できる専門的な人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

- (1) 社会に関する幅広い教養と、情報関連分野において新たな技術を生み出すための基礎能力を有し、自主的に計画・行動ができる人。
- (2) 情報関連分野において高度な専門知識を修得し、新しい分野を開拓し、自ら問題解決をしたいと思っている人。
- (3) 自らの専門性を持って、研究や創作などを通して社会に貢献する意欲のある人。

大阪電気通信大学大学院

カリキュラム・ポリシー

(全学の統一的教育方針)

大阪電気通信大学は、時代のニーズにマッチした確かな技術力と人間力を身につけ、社会で役立つ人材を育成・輩出することを使命としています。本学の大学院では工学研究科、医療福祉工学研究科、総合情報学研究科の3つの研究科を設置しており、それぞれの研究科内の各専攻において、実践的な実学の教育研究体制を構築しています。すなわち、大学院でのカリキュラムや研究指導では、各専攻における専門性を追求しながら、人間生活や地球環境に関わるより幅広い分野の科学技術に対する興味と理解を深め、これからの社会や産業に貢献できる技術者としての人間力を養います。そのために、学修してきた知識や技能を応用しながら着実に課題を解決していく「問題解決能力」に加えて、社会のニーズから自分の研究課題を見出すことができる「問題発掘能力」を培っていきます。

大阪電気通信大学大学院

ディプロマ・ポリシー

(全学の統一的学位授与方針)

大阪電気通信大学は、時代のニーズにマッチした確かな技術力と人間力を身につけ、社会で役立つ人材を育成・輩出することを使命としています。そのため、本学大学院の全研究科では、実践的な実学の技能として基盤となる次の3つの能力を修得していることを共通の要件としています。

- (1) 手が動かせること：学修した知識や技能を組み合わせ活用し、与えられた課題および自分で見出した課題に対して着手できる能力。
- (2) 絵が描けること：頭の中で考えているアイデアやイメージしていることを図式化して、ビジュアルな形として表現できる能力。
- (3) コミュニケーションができること：人の考えを理解し、自分の考えも適切に伝えることができ、協働作業の中で自分の役割を果たしながら、主体的に課題解決に取り組んでいく能力。

さらに、これら3つの能力を総合的に応用して、これからの社会や産業の発展のために、グローバルな視野から新たな課題を発掘して解決していく創造力を培い、技術者としての責任感や倫理観を身につけた者に対して、「修士（専攻分野）」の学位を授与します。

以上に加えて、より高度で幅広い課題にも取り組むことができ、リーダーとしても強い責任感をもって統率していく能力を有していると認められる者に対して、「博士（専攻分野）」の学位を授与します。

工学研究科

カリキュラム・ポリシー

(工学研究科の統一的教育方針)

工学研究科では、基礎科学、電気、電子、情報・通信、機械、制御の分野において社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。それらの分野における技術の進展、複合化は非常に速く、従来の電気、機械等の分野区分では十分な対応が難しくなっています。そのため工学研究科を工学専攻の一専攻とし、そこに先端理工学、電子通信工学、制御機械工学、情報工学の4コースを置き、選択したコースの授業に加えて他のコースの授業を履修することにより、幅広い知識を獲得できるようにしました。また、研究においては分野の異なる研究者の指導が受け易くなり、研究の幅を広げることができます。それらのコースにおけるカリキュラムを通じて博士前期課程（修士課程）及び博士後期課程では以下のことを目指します。

博士前期課程（修士課程）：

- (1) 自ら進んで学び、高度な専門知識を修得する。
- (2) 問題を設定し、自ら解決する能力を修得する。
- (3) 人の考えを理解し、自己の考えを適切に伝達できるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および協調性を身につける。
- (4) 科学技術に対する正しい倫理観を身につける。

博士後期課程：

- (1) 新しい分野を開拓し、独創的な研究を遂行できる能力を修得する。
- (2) リーダーとして責任感を持ち、課題解決を統率していく能力を修得する。

先端理工学コース
カリキュラム・マップ(博士前期課程)

総合電子

ナノ工学特論

先端計測特論

物質化学

分子分光学特論

ケミカルバイオロジー-特論

バイオテクノロジー-特論

資源工学特論

基礎科学

シミュレーション統計
力学特論1, 2

地球物理学特論

先端物理学特論

数理解析

現象数理学特論

現代幾何学特論

確率モデル特論

数理物理学特論

共通

特別研究
1, 2, 3, 4

ゼミナール
1, 2, 3, 4

先端理工英語
1, 2

固体物理学特論1, 2

半導体工学特論1, 2

有機化学特論

無機化学特論

量子物理学特論

現代物理学特論

複素解析特論

基幹科目群

電子通信工学コース カリキュラム・マップ（博士前期課程）

分野	科目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	進路分野			
						1*	2*	3*	4*
光・電子デバイス工学	半導体デバイス工学		○		○	◎	◎		
	光デバイス工学	△		△		◎	◎	◎	
	集積デバイス工学		○		○	◎	◎	◎	
	光・電子デバイス特論	△		△		◎	◎		
光・マイクロ波工学	電磁波論		△		△		◎	◎	◎
	アンテナ工学	△		△				◎	◎
	電磁計測特論	△		△					◎
	電波応用工学特論	△		△				◎	◎
	衛生通信工学特論	○		○				◎	◎
	電力システム工学		○		○	◎		◎	
通信・ネットワーク工学	ネットワーク工学	○		○			◎	◎	
	情報セキュリティ		△		△			◎	
	信号処理	○		○				◎	◎
	暗号理論特論	○		○				◎	
	信号システム理論特論		○		○			◎	◎
	情報システム工学特論	△		△				◎	◎
共通	ゼミナール	ゼミナール1	ゼミナール2	ゼミナール3	ゼミナール4				
	特別研究	特別研究1	特別研究2	特別研究3	特別研究4				

赤: 必修科目
青: 選択必修科目
黒: 選択科目

○: 奇数年開講科目(西暦)
△: 偶数年開講科目(西暦)

1*: 半導体デバイス分野
3*: 通信技術分野

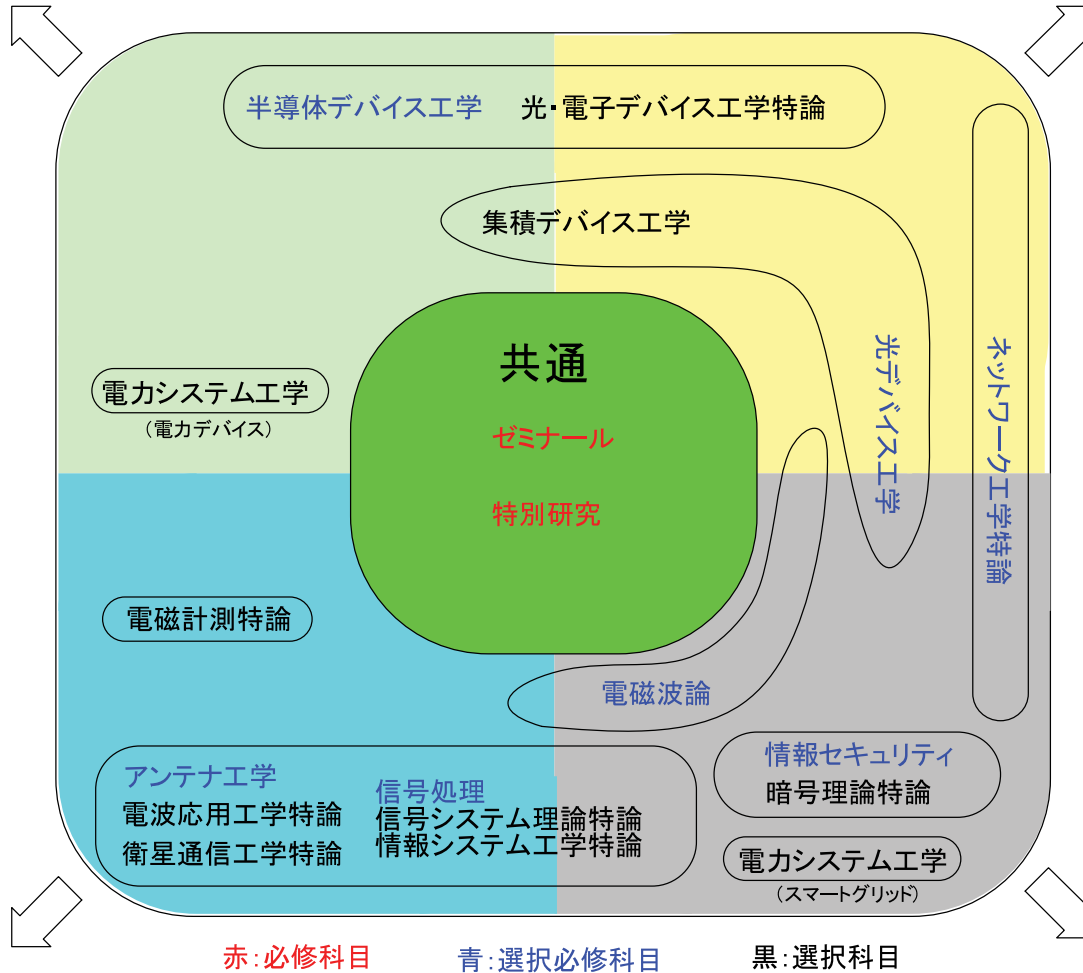
2*: 光デバイス分野
4*: センシング技術分野

電子通信工学コース
カリキュラム・マップ（修士前期課程）

(進路分野)

半導体デバイス分野

光デバイス分野

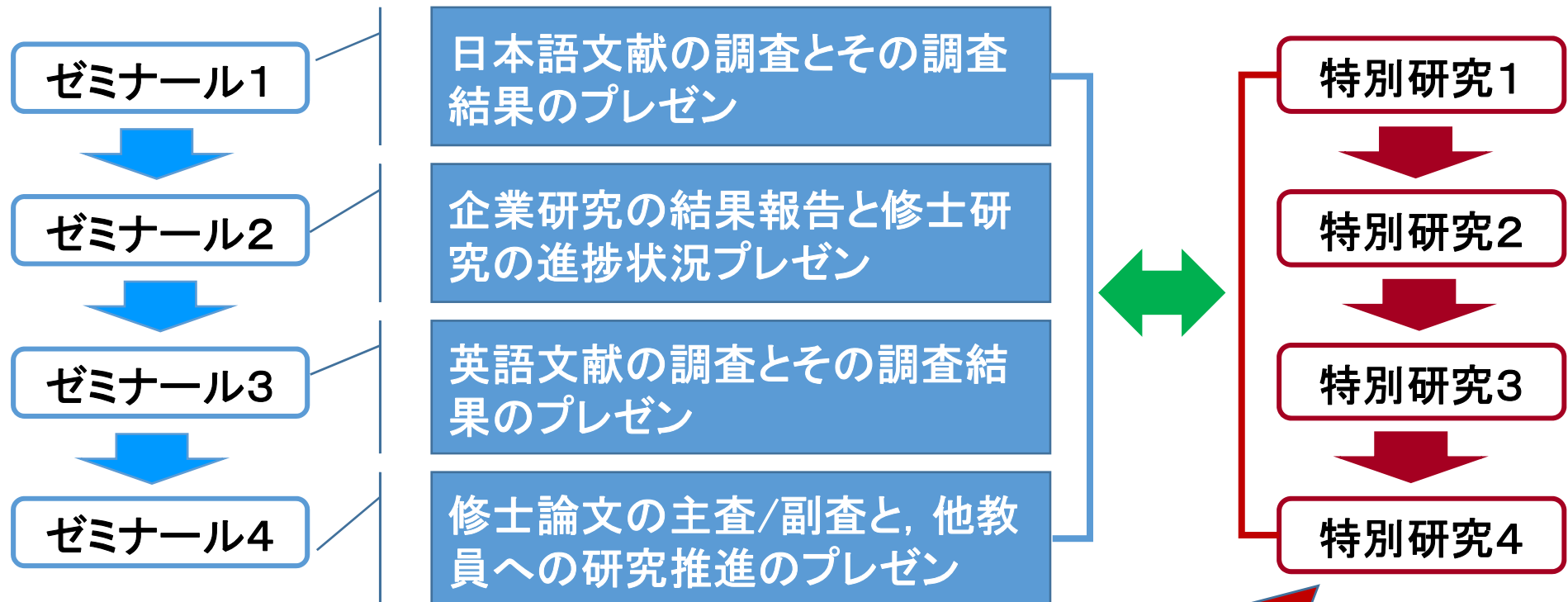


通信・システム技術分野

センシング技術分野

制御機械工学コース
カリキュラムマップ（博士前期課程）

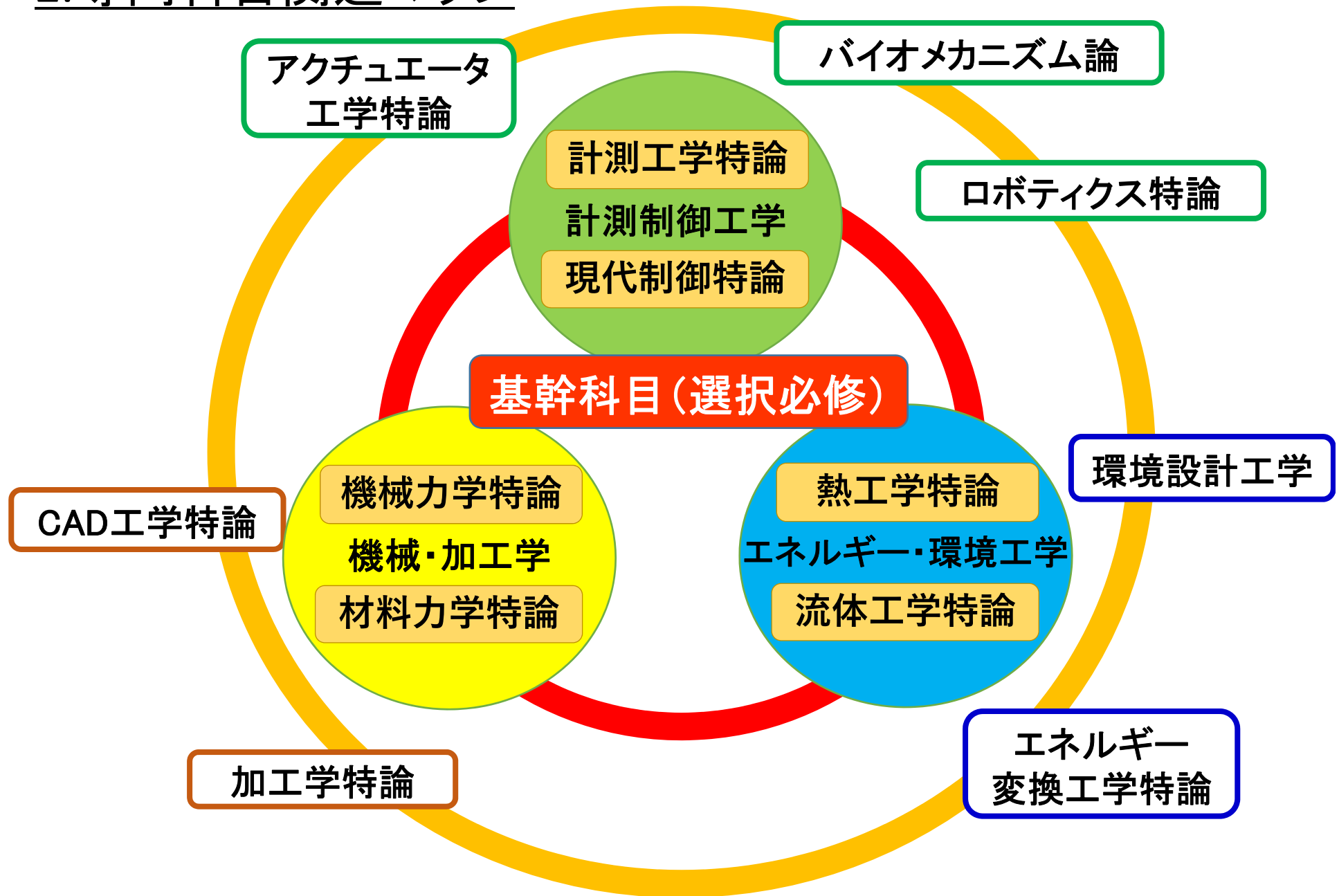
1. 必修科目



特別研究

指導教員の指導の下、それぞれの研究課題に関する研究を行う。
また、研究に関し副指導教員から補助的指導を得る。

2. 専門科目関連マップ



3. 共通科目(必修科目以外)

本コースでは、これらの科目を通じて、グローバルに通用するエンジニアの育成に努める。

基幹科目(選択必修)

テクニカル
コミュニケーション1

テクニカル
コミュニケーション2

英語でのコミュニケーション能力を養う。

国際工学技術特論1


国際工学技術特論2

国際的に通用するエンジニアとしての素地を育む。

産学連携機械
工学特論

産業界の第一線で活躍されている研究者、技術者、経営者などの話を聞くことにより、勉学への意欲を育む。

情報工学コース カリキュラム・マップ（博士前期課程）

分野	科目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	
情報基礎学	情報数理学特論 自然言語処理特論	情報工学および関連する諸分野に関する広範な知識と高度な 専門的技術の体得を目指し、1年次、および2年次において履修する				修 士 学 位 論 文 の 提 出 ・ 公 聴 会
情報処理学	パターン認識特論 知能情報処理特論 三次元計測特論 画像情報解析特論 コンピュータビジョン特論					
生産管理工学	計算機統計学特論 人間工学特論					
計算機基礎学	理論計算機科学特論 システムLSI設計特論					
視覚情報学	コンピュータグラフィックス特論 光情報センシング特論 光情報処理特論					
共通	ゼミナール					
	特別研究	特別研究1 研究課題の発見	特別研究2 協調的な問題解決能力 の獲得	特別研究3 創造的な問題解決能力 の獲得	特別研究4 高度な研究能力の獲得	
		 情報工学およびその関連分野に関する研究能力の向上 情報工学技術者としての高い倫理観の獲得				

ディプロマ・ポリシー

工学研究科では、高度な技術力と人間力を身につけ、社会に貢献しうる専門的な人材を育成することを使命としています。そのため工学分野の基礎・専門知識を広く修得した上に、

- (1) 自ら新たな課題を開拓し、柔軟な発想をもって課題を解決できる応用力を身につけていること。
- (2) 高度に専門家した分野において、チームでの協働作業で自己の役割を果たした上で、さらに継続的な探究心と問題解決力を保持し、新たな技術の創成に寄与できる能力を身につけていること。
- (3) 現代技術社会に広く対応できる、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけていること。

以上に加えて、各分野における専門家として社会に貢献しうると認められた者に「修士(工学)」の学位を、さらに新しい分野を開拓し、独創的な研究を遂行でき、リーダーとしての強い責任感を有すると認められた者に「博士(工学)」の学位を授与します。

医療福祉工学研究科

医療福祉工学専攻

カリキュラム・ポリシー

医療福祉工学専攻では、医療・保健・福祉領域に展開しうる工学技術の高い専門性と総合力を兼ね備えた研究・技術者を育成するために、以下のようなカリキュラムを設置しています。

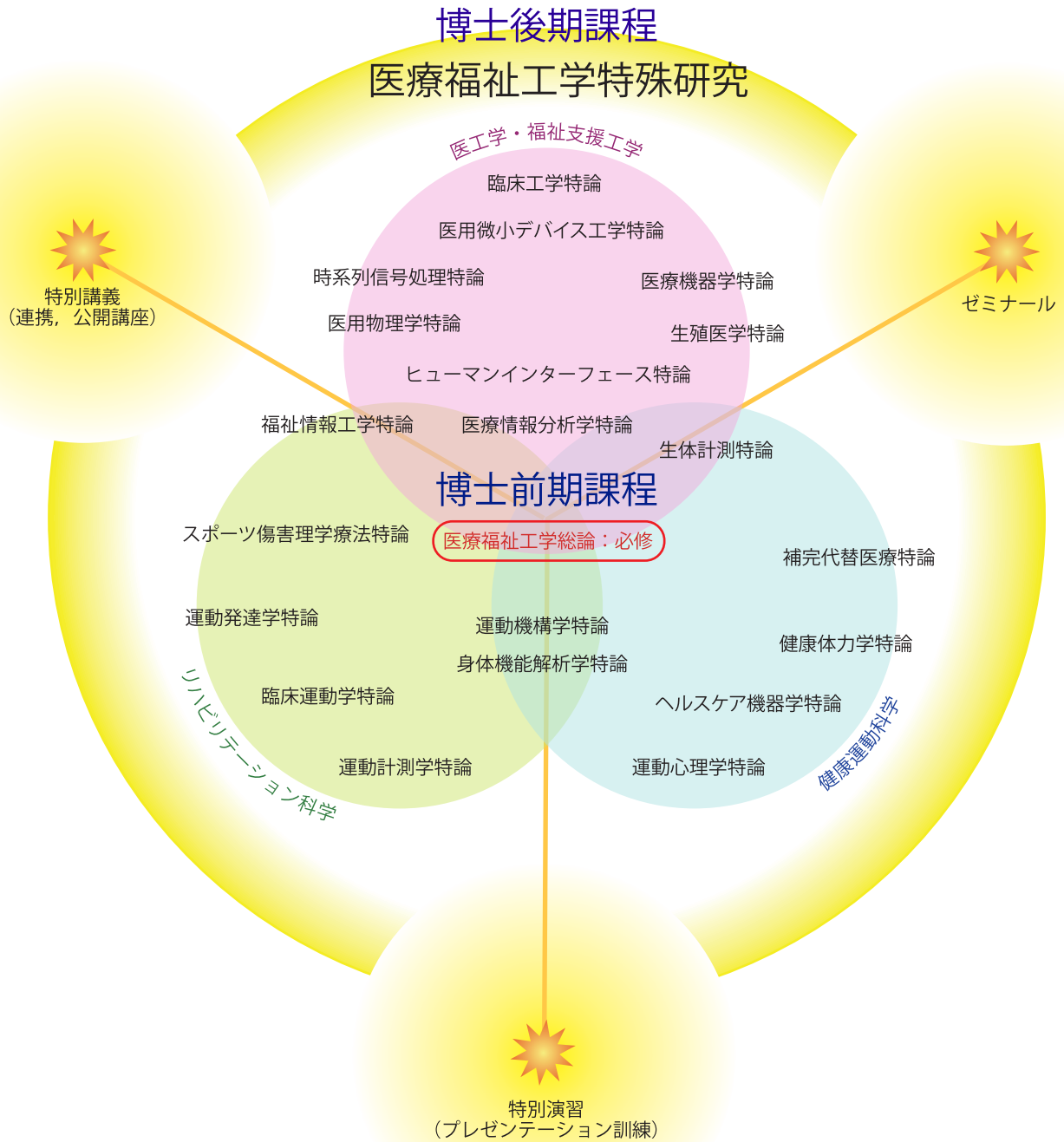
博士前期課程：

- (1) 高度に専門化された医療福祉工学の学術領域において、実践の場で活用しうる生体医工学、医療工学、福祉工学、健康運動科学、リハビリテーション科学に分野別された専門科目群を設置しています。
- (2) 多岐にわたる関連領域で通用するプレゼンテーション能力を身につけるため、特別演習を設置しています。プレゼンテーション能力は、専門性が異なる複数の本専攻所属教員により指導・評価します。
- (3) 生命科学を基礎とした融合分野である医療福祉工学領域において、学内外で実施される教育プログラムを受講する特別講義を設置しています。本講義は世界的な視野を持ち、新規分野の開拓者になることを目的としています。
- (4) 指導教員の指導のもとに特定の課題について研究し、修士論文を作成するための特別研究を設置しています。

博士後期課程：

生体医工学、医療工学、福祉工学、健康運動科学、リハビリテーション科学を包括した「医療福祉工学特殊研究」を設置し、医療福祉工学の学術領域における問題発見と解決手段の具体化と実践を行い、博士論文にまとめるための研究指導を行っています。

医療福祉工学専攻
カリキュラム・マップ (博士前期課程)



ディプロマ・ポリシー

博士前期課程：

- (1) 医療福祉工学専攻の博士前期課程に在籍して所定の単位を修得し、本専攻が行う修士論文の審査及び試験に合格した者に対して「修士（工学）」の学位を授与します。
- (2) 博士前期課程修了にあたっては、次の点に到達していることを目安とします。
 1. 生体医工学、医療工学、福祉工学、健康運動科学、リハビリテーション科学の分野において、実践の場で活用しうる専門的知識と技術を修得していること
 2. 同じ専門分野や関連する領域の研究者に対して研究成果を公表し、相互に理解を深めるためのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を有していること
 3. 生命への尊厳、科学に対する真摯な姿勢、高い倫理的意識と社会に貢献する意志を持ち、集団で問題解決に挑むことができる社会性を有していること

博士後期課程：

- (1) 医療福祉工学専攻の博士後期課程に在籍して所定の単位を修得し、本専攻が行う博士論文の審査及び試験に合格した者に対して「博士（工学）」の学位を授与します。
- (2) 博士後期課程修了にあたっては、次の点に到達していることを目安とします。
 1. 当該分野において深い学識を持ち、高度な実験技術とデータ分析能力を有していること
 2. 国際的な視野を持ち、自らの研究成果を発信する能力とそれを学術論文として公表できる能力を有していること
 3. 当該分野のみならず、グローバルに諸問題を発見し、解決する能力を有していること
 4. 生体医工学、医療工学、福祉工学、健康運動科学、リハビリテーション科学の分野において、相互に議論できるバランス感覚とリーダーとして活躍できる能力を有していること

総合情報学研究科

カリキュラム・ポリシー

(総合情報学専攻の統一的教育方針)

総合情報学専攻では、コンピュータサイエンス、デジタルゲーム、デジタルアートおよびアニメーションの分野において社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。ネットワークが高度に発達した現代の情報化社会では、これらの分野における技術の進展と複合化が急速に進み、また技術の研究・開発段階から実社会での応用・事業展開にいたるサイクルも速く、技術力のみならず創造力、表現力が必要になり、さらには企画力、管理力などの総合的な能力が社会から要求されるようになりました。

そのため、総合情報学専攻はデジタルゲーム学、デジタルアート・アニメーション学、コンピュータサイエンスの3コースを設置し、選択したコースの授業に加えて他のコースの授業を履修することができるようにすることで、幅広い知識を獲得できるようにしています。また、研究・開発・制作活動においては分野の異なる指導者の指導が受けやすくなり、活動の幅を広げることができます。

これらのコースにおけるカリキュラムを通じて博士前期課程（修士課程）及び博士後期課程では以下の目標を目指します。

博士前期課程：

- (1) 自ら進んで学び、高度な専門知識を修得し、また創造力と表現力を身につける。
- (2) 問題を設定し、自ら解決する能力を修得する。
- (3) 人の考えを理解し、自己の考えを適切に伝達できるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および協調性を身につける。
- (4) 研究および創造活動に対する正しい倫理観を身につける。

博士前期課程 デジタルゲーム学コース：

ゲームコンテンツ制作技術や柔軟な発想による人とコンピュータの間をつなぐインタフェース技術、さらにはデジタルメディアや娯楽に関する文化的・産業的側面も視野に入れた分野において、社会に貢献できる人材を育成することを目的とし、情報技術をベースに芸術性を併せ持った創造力の育成を目指しています。

(1) 情報分野

ソフトウェアの設計と開発、デジタルメディアのデザイン、空間設計、教育応用、プロジェクト推進など、それぞれ実践的かつ専門的見地から教授する。

(2) 芸術分野

デジタルゲームの企画・構成、グラフィックスの制作技術、情報デザイン、芸術的創造、映像制作など、それぞれ実践的かつ専門的見地から教授する。

博士前期課程 デジタルアート・アニメーション学コース：

デジタルゲーム学コースと同様に、情報技術と芸術性を併せ持つ人材の育成を目的としていますが、本コースでは映像制作、音楽、視覚イメージなど芸術的・文化的創造を軸として、そのためにコンピュータサイエンスを応用するという観点で、多くの芸術分野に加えて情報技術分野を教授する構成になっています。

(1) 芸術分野

映像制作、アニメーション、作曲、音響、視覚表現、様々なメディアによる表現、対話的コンテンツ、映像文化、美術・芸術活動などに関して、社会的に第一線で活動している専門家により実践的かつ専門的見地から教授する。

(2) 情報分野

情報技術を応用した創造活動を支えるための情報技術と、プロジェクトマネジメントや市場との関連など、産業として必要となる知識についても教授する。

博士前期課程 コンピュータサイエンスコース：

コンピュータサイエンスコースは、情報科学、コンピュータシステム、メディアシステムの3分野に加えて、コース内での共通分野として全教員が担当する演習から構成されています。

(1) 情報科学

情報の理論的基盤となる情報理論およびアルゴリズムに関する専門知識を教授する。

(2) コンピュータシステム

コンピュータシステムを構成する基礎としてのオペレーティングシステムやネットワークに関する専門知識とともに、医療や制御などのコンピュータの実践的応用についても最先端研究事例をもとに専門知識を教授する。

(3) メディアシステム

デジタルメディアの基礎となるコンピュータグラフィクスや画像認識技術、最近急速に進展しているバーチャルリアリティに関する技術とその応用的側面、さらにこれらの技術を適用するロボティクスに関して、実践的な開発・研究を通して専門知識を教授する。

博士後期課程：

(1) 新しい分野を開拓し、独創的な研究を遂行できる能力を修得する。

(2) リーダーとして責任感を持ち、課題解決を統率していく能力を修得する。

デジタルアート・アニメーション学コース カリキュラム・マップ（博士前期課程）

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	
	研究に求められる基礎的かつ学際的知見による諸能力を幅広く育成する	ゼミナール1				
	所属する研究室において指導教員から与えられたテーマに沿って指導を受けながら研究計画を実行する					
	研究テーマと修了後に想定しているキャリア開発計画を一致させる	特別研究1				
	知識・技能（取得予定の資格など）を獲得する為の学習図書及び参考資料を熟読する	ゼミナール2				
	自分の研究や作品制作の内容を他者に理解してもらうプレゼンテーション技術やコミュニケーション能力を磨く	特別研究2				
	専門以外の領域も含め研究のための幅広い知識を修得する					ゼミナール3
	レベルの高い作品制作やプロジェクトの実践を行うために、学外のコンペティションや展覧会、学会発表を行う					特別研究3
	自分の研究や作品を広く発表し、また様々なクリエイターや研究者と積極的に交流する					ゼミナール4
	高い専門的な知識と技能で研究を深く掘り下げ、修士論文または修士作品を完成させる					特別研究4
専門の研究分野	アート	比較映像特論	クリエイティブマネジメント特論	ミクストメディアアート特論		
	アニメーション		アートマネジメント特論			ハイブリッドアニメーション特論
	エンタテインメント	マーケティング特論	イメージビジュアライゼーション特論	サウンドデザイン特論		
	マンガ	映像文化特論	キャラクターコミュニケーション特論			
	インタラクティブコンテンツ	ビジュアルデザイン特論		知的メディア特論		

修士(情報学)

修士論文 または 修士作品

共通科目

(必修14単位)

ゼミナール3
ゼミナール4
特別研究3
特別研究4

ゼミナール1
ゼミナール2
特別研究1
特別研究2
デジタルゲーム学研究

(選択必修2単位)

プレゼンテーション実習3
プレゼンテーション実習4

プレゼンテーション実習1
プレゼンテーション実習2

専攻専門科目 (選択14単位)

情報分野

情報アーキテクチャ特論
ソフトウェア構成学特論
教育ゲーム特論
プログラミング環境特論
問題解決特論
アニメーションプログラミング特論
デジタルメディアデザイン特論

芸術分野

デジタルゲーム特論
ゲーム・グラフィックス特論
情報デザイン特論
ゲームアート特論
プランニング・プロデュース特論

他専攻の専門科目

2
年

1
年

コンピュータサイエンスコース
カリキュラム・マップ（博士前期課程）

1年次

専門科目（選択10単位以上）

- (情報科学分野)
- ・ 情報理論特論
 - ・ アルゴリズム特論
- (コンピュータシステム分野)
- ・ オペレーティングシステム特論
 - ・ 計算機援用工学特論
 - ・ 情報ネットワーク特論
- (メディアシステム分野)
- ・ コンピュータグラフィックス応用工学
 - ・ バーチャルリアリティ特論
 - ・ ロボティクス特論
 - ・ コンピュータビジョン特論

(他コースの専門科目)

共通科目（必修20単位）

コンピュータサイエンス演習1	ゼミナール1	特別研究1
↓	↓	↓
コンピュータサイエンス演習2	ゼミナール2	特別研究2
↓	↓	↓
コンピュータサイエンス演習3	ゼミナール3	特別研究3
↓	↓	↓
コンピュータサイエンス演習4	ゼミナール4	特別研究4

2年次

修士学位論文

修士（情報学）

ディプロマ・ポリシー

総合情報学専攻は、高度情報化社会の基盤となる情報技術の根幹をなすコンピュータサイエンスの基礎と応用とともに、デジタルメディアの芸術的表現や社会での適用のための企画・管理能力に関しても教授研究の対象としています。それにより、基盤となる情報通信ネットワーク、グラフィクス、計測・制御技術から、映像やゲームの開発、World Wide Webをはじめとしたデジタルコンテンツ、ロボティクスなどの応用分野において、以下の条件を満たした上で、社会に貢献できる専門的な人材を育成することを目的としています。そのため、情報技術分野の基礎・専門知識を広く修得し、以下の条件を満たし、各分野における専門家として社会に貢献しうると認められた者に「修士(情報学)」の学位を授与します。

(1) 自ら新たな課題を開拓し、柔軟な発想をもって課題を解決できる応用力を身につけていること。

(2) 高度に専門化した分野において、チームでの協働作業で自己の役割を果たした上で、さらに継続的な探究心と問題解決力を保持し、新たな技術の創成に寄与できる能力を身につけていること。

(3) 現代技術社会に広く対応できる、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけていること。

さらに以上の条件に加えて、新しい分野を開拓し、独創的な研究を遂行でき、リーダーとしての強い責任感を有すると認められた者に「博士(情報学)」の学位を授与します。

大阪電気通信大学大学院

教育基本三方針

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

発行日　：　2021年4月1日

発行者　：　大阪電気通信大学
大阪府寝屋川市初町18-8
072-824-1131（代）